京都光華女子大学・京都光華女子大学短期大学部

# 地域連携報告書

光華女子学園

# 環境報告書

令和７年度版



学校法人
光華女子学園

Index

京都光華女子大学・京都光華女子大学短期大学部　地域連携報告書
光華女子学園　環境報告書

## 地域連携報告書・環境報告書（令和７年度版）


1. 光華女子学園の概要 ……01
2. 地域連携推進センター・環境教育推進室から ……02
　2.1 地域の「健康・未来創造」への貢献をさらに進化させる大学へ
　2.2 サステナブルな社会に向けて


### 地域連携報告書


3.Well-Being な社会の共創 ……03
　3.1 地域・企業との連携協定締結 ……04
　3.2 本学のリベラルアーツ科目の取り組み ……05
　3.2-2 各学科の取り組み ……06
　3.3 公開講座 ……10
　3.4 健康・未来創造キャンパスを目指して ……11


### 環境報告書


4. エコキャンパスの推進 ……15
　4.1 学園における各種エネルギーの使用状況と廃棄物排出量 ……16
　　① 電気エネルギー消費量
　　② ガスエネルギー消費量
　　③ 水道水使用量
　　④ ガソリン消費量
　　⑤ 軽油消費量
　　⑥ 廃棄物排出量
　4.2 KOKA エコアワード ……19
　4.3 未来を創る！サステナビリティアワード ……23
5. 各校園の環境教育・環境活動 ……25
　5.1 光華幼稚園 ……26
　5.2 光華小学校 ……30
　　① 光華環境月間
　　② 臨海学習
　　③ さすてな京都見学
　　④ 琵琶湖疏水見学
　5.3 京都光華中学校・高等学校 ……34
　　①京都＋ベンチャーにて：SDGs ボードゲーム
　5.4 京都光華女子大学・短期大学部 ……35
　　① 学科の学びを結実するアップサイクルの実践
　　② 京大上賀茂試験地でのフィールドワーク
　　③ 自然災害から身を守るために（自衛隊による授業）
　　④ 地域の小中高への環境・エネルギー教育
6. 第三者によるご意見 ……38
　地域連携報告書・環境報告書に寄せて

# 地域連携報告書・環境報告書

## 1. 光華女子学園の概要

【沿革】

昭和14年 9月15日　財団法人光華女子学園設立認可 光華高等女学校設置認可
15年 4月 1日　光華高等女学校開設
19年 3月11日　光華女子専門学校開設 数学科、生物科、保健科を設置
20年 3月29日　高女同窓会「澂清会」発足
22年 3月15日　女専同窓会「ふかみぐさ」発足
22年 4月 1日　学制改革により光華中学校開設（光華高女より）
22年10月10日　光華女子専門学校保健科を生活科に改称
23年 4月 1日　学制改革により光華高等学校開設（光華高女より）
25年 4月 1日　光華女子専門学校を光華女子短期大学に移行 文科、家政科を設置
26年 2月28日　学校法人光華女子学園設立認可
29年 4月17日　光華衣服専門学院開設
39年 4月 1日　光華女子大学開設 日本文学科、英米文学科を設置（短大文科を移行）
40年 4月 1日　光華幼稚園開設
43年 4月 1日　光華小学校開設
62年 4月 1日　短期大学、家政科に生活科学専攻と生活文化専攻を設置
平成元年11月15日　総裁大谷智子裏方還浄（83才）
3年 4月 1日　真宗文化研究所開設、情報教育センター開設
5年 4月 1日　短期大学、家政科を生活学科に改称
6年 4月 1日　大学、文学部に人間関係学科を開設
6年11月22日　光華衣服専門学院廃校
7年 4月 1日　短期大学、生活学科に4専攻を設置
9年 4月 1日　短期大学、生活学科に栄養専攻を設置
10年 4月 1日　光華女子大学大学院開設
文学研究科（修士課程）、日本語日本文学専攻、英語英米文学専攻を設置
12年 4月 1日　光華女子短期大学、生活学科を光華女子大学短期大学部 生活環境学科に改称
光華女子大学、日本文学科を日本語日本文学科に改称
英米文学科を英語英米文学科に改称
13年 4月 1日　光華女子大学大学院、光華女子大学、光華女子大学短期大学部、光華高等学校、光華中学校を京都光華女子大学大学院、京都光華女子大学、京都光華女子大学短期大学部、京都光華高等学校、京都光華中学校へ校名変更
大学、文学部・人間関係学科を改組、人間関係学部・人間関係学科を設置
14年 4月 1日　短期大学部、栄養専攻、食生活専攻を改組、大学、人間関係学部に人間健康学科を設置
15年 4月 1日　大学、人間関係学部に社会福祉学科を設置
16年 4月 1日　大学院に人間関係学研究科（修士課程）を設置
京都光華女子大学カウンセリングセンター（人間関係学研究科附属施設）開設
17年 4月 1日　京都光華女子大学エクステンションセンター開設
18年 4月 1日　短期大学部、生活環境学科を改組、ライフデザイン学科を設置
ライフデザイン学科「地域総合科学科」適格認定
短期大学部にこども保育学科を設置
20年 4月 1日　大学、人間関係学部を人間科学部に改称
大学、英語英米文学科を国際英語学科に改称
大学、人間健康学科を健康栄養学科に改称
22年 4月 1日　大学、文学部、人間科学部を改組、人文学部、キャリア形成学部、健康科学部を設置
人文学部に文学科、心理学科を設置
キャリア形成学部にキャリア形成学科を設置
健康科学部に健康栄養学科を設置
23年 4月 1日　大学、健康科学部に看護学科を設置
25年 4月 1日　大学、健康科学部健康栄養学科に健康スポーツ栄養専攻を開設
地域連携推進センター・環境教育推進室を開設
26年 4月 1日　大学、健康科学部に医療福祉学科（社会福祉専攻・言語聴覚専攻）、心理学科を開設
大学院、人間関係学研究科を心理学研究科に改称
27年 4月 1日　大学院に看護学研究科を設置
短期大学部　こども保育学科を改組、大学、こども教育学部　こども教育学科をを設置
28年 4月 1日　女性キャリア開発研究センターを開設
30年 4月 1日　大学に助産学専攻科を設置
31年 4月 1日　大学・短期大学部にリベラルアーツセンターを開設
令和 2年10月30日　富小路まちやキャンパスを開所
3年11月15日　光華もの忘れ・フレイルクリニックを開業
4年 4月 1日　大学に人間健康学群を設置
6年 4月 1日　大学、健康科学部を2学部に改組、看護福祉リハビリテーション学部・健康科学部を設置
福祉リハビリテーション学科に作業療法専攻を設置
短期大学部に歯科衛生学科を設置
7年 4月 1日　大学に食共創研究所を設置

【学生・生徒・園児数（2025年5月1日　現在）】

| | |
|---|---|
| 大　学　院 | 30人 |
| 大　　学 | 1,502人 |
| 短期大学部 | 173人 |
| 高 等 学 校 | 300人 |
| 中　学　校 | 105人 |
| 小　学　校 | 233人 |
| 幼　稚　園 | 151人 |
| 合　　計 | 2,494人 |

【教職員数（2025年5月1日　現在）】

| 区　分 | 専 任 等 | 非常勤等 | 合　計 |
|---|---|---|---|
| 大学院･大学 | 99人 | 179人 | 278人 |
| 短 期 大 学 部 | 18人 | 22人 | 40人 |
| 高 等 学 校 | 28人 | 28人 | 56人 |
| 中　学　校 | 7人 | 5人 | 12人 |
| 小　学　校 | 19人 | 12人 | 31人 |
| 幼　稚　園 | 11人 | 10人 | 21人 |
| 職　　員 | 88人 | 54人 | 142人 |
| 合　　計 | 270人 | 310人 | 580人 |

【キャンパス】

光華女子学園のメインキャンパスは、京都府京都市右京区にある西京極キャンパスです。西京極キャンパスには、国道9号線（五条通り）を挟み、北校地に大学院、大学、短期大学部、幼稚園が、南校地に高等学校、中学校、小学校が設置されています。また最寄りの阪急京都線「西京極」駅からは閑静な住宅街を抜け徒歩約7 分です。京都市中京区にある富小路まちやキャンパスは、京都市営地下鉄京都市役所前駅から徒歩約7分、御池通りから富小路通りを下がったところにあります。

| ◆校地面積（2025年5月1日　現在） | |
|---|---|
| 北　校　地 | 24,481.38㎡ |
| 南　校　地 | 18,823.00㎡ |
| 大原野グラウンド | 14,308.00㎡ |
| 花の寺グラウンド | 14,943.73㎡ |
| 富小路まちやキャンパス | 67.00㎡ |
| 合　　計 | 72,623.11㎡ |

| ◆校舎面積（2025年5月1日　現在） | |
|---|---|
| 北　校　地 | 37,962.23㎡ |
| 南　校　地 | 23,067.61㎡ |
| 大原野グラウンド | 435.58㎡ |
| 富小路まちやキャンパス | 67.00㎡ |
| 合　　計 | 61,532.42㎡ |

【所在地】　〒615-0882　京都市右京区西京極葛野町38
最寄りの阪急京都線「西京極」駅から住宅街を抜け徒歩約7 分

# 2. 地域連携推進センター・環境教育推進室から

地域連携推進センターは、「健康・未来創造キャンパス」の実現を目指し、本学と自治体や周辺地域との共生を図る拠点として運営しています。本センターでは、地域の幅広い年代の方が楽しめる「光華ワクワク×健やかフェス」の開催や子どもの居場所づくり･健康増進プロジェクトとして「光華こども食堂」「光華キッズなフェスタ」等の企画･運営を行い、地域に向けた社会貢献を推進しています。

## 2.1 地域の「健康・未来創造」への貢献をさらに進化させる大学へ

2025年度は、EXPO2025大阪・関西万博へ大学として参加するという大変貴重な経験をさせていただきました。共創チャレンジでの「食のバリアフリー」をテーマとした研究成果の発表や5大学の学生が連携して取り組んだ「健康とウェルビーイング」の取り組み発表、関西パビリオン京都ゾーンでの「食の未来をつむぐ」をテーマとした展示（産学連携で開発した機能性和菓子・日本酒・着物のアップサイクル製品等）では、延べ1万人以上の方々と交流し、本学の教育・研究の成果をお伝えすることができました。その他にもゼミや学生団体としての参加もあり、学生及び教職員にとって大きなチャレンジの機会となりました。

また、地域の方々に向けたイベントでは、第3回となった「光華ワクワク×健やかフェス」に約1,850名、“親子で楽しむ”をコンセプトとして11月に初開催した「光華キッズなフェスタ」には、約850名と数多くのご来場をいただきました。継続的に開催している「光華こども食堂（おいでよ！こうかわくわく食堂）」も大変ご好評をいただき、今年度より実施回数を増やしております。ご参加くださった地域の皆様や連携する企業・団体様のご協力には、心より感謝申し上げます。

京都光華公開講座では、「こどもの発達･健康」のテーマで6講座、「災害･防災」のテーマで4講座を開催しました。また、リカレント（学び直し）教育プログラムでは、「くらしの中の統計学」をテーマに5講座を開催しました。その他、産官学連携プロジェクト科目や地域連携型科目等、教育面での地域連携活動にも今年度も積極的に取り組んでまいりました。今後も、本学の教育･研究活動が地域のみなさまの「健康･未来創造」にさらに貢献できるよう、活動を進めてまいります。

引き続き、ご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

地域連携推進センター長
関　　道子

## 2.2 サステナブルな社会に向けて

環境を大切にする本学は、今年度も環境教育に積極的に取り組んできました。そのひとつが、今回で16回目を数える「KOKAエコアワード」（環境教育推進室主催）です。加えて、新たなチャレンジとして、本学が参加した大阪・関西万博のレガシーを残すことを目的に、「持続可能なまちづくり」や「人を笑顔にする活動」に取り組む大学生・短大生の優れた活動を表彰し、実践的な学びや共創の姿勢を育む「未来を創る！サステナビリティアワード」（同）を設けました。今回は13のプロジェクトの応募がありました。これらの取り組みが環境やサステナビリティを考えるきっかけになれば心からうれしく思います。引き続き、ご支援をよろしくお願いいたします。

環境教育推進室長
金治　　宏

# 3.Well-Beingな社会の共創

## 3.1 地域・企業との連携協定締結

京都光華女子大学では、地域との連携活動を円滑に継続すると同時に、地域貢献と実学的教育をより発展させていくため、行政他、各種団体と連携協定を結んでいます。2025年度は、下記の協定を結びました。

| 協定締結日 | 締結先 | 協定名 |
|---|---|---|
| 2025 年 11 月 12 日 | 日清シスコ株式会社 | 産学連携に関する協定 |
| | 本協定は、大学生ならではの感性を生かしたシリアルの活用方法や新規メニューの開発を通して、健康的な食生活の推進および地域社会への貢献、さらに実践的教育の推進を図ることを目的とする。<br>「産学連携協定」に基づく主な取組事項<br>（1）日清シスコ株式会社が製造・販売するシリアルを用いたレシピの開発<br>（2）広報活動および産学連携活動への参加を通じた人材育成および研究の推進<br>（3）その他、連携・協力に資する事項の推進 | |

**【これまでの締結一覧】**

| 協定締結日 | 締結先 | 協定名 |
|---|---|---|
| 2010 年 11 月 7 日 | 葛野学区自主防災会 | 葛野学区自主防災会との協定<br>- 大規模災害発生時における地域協力に関する協定 - |
| 2011 年 11 月 4 日 | 右京区役所、5 つの大学 | 右京区大学地域連携に関する協定　（5 つの大学：京都外国語大学、嵯峨美術大学、花園大学、京都先端科学大学、立命館大学 (2015 年 4 月 8 日京都学園大学を追加 )) |
| 2013 年 7 月 17 日 | 高知県嶺北地域観光･交流推進協議会 | 嶺北地域観光・交流推進協議会との連携協力に関する協定 |
| 2014 年 3 月 8 日 | 右京区役所、右京消防署 | 右京区役所、右京消防署と「防災及び災害時支援に関する覚書」 |
| 2015 年 12 月 8 日 | 京都市教育委員会 | 京都市教育委員会との相互連携に関する協定 |
| 2017 年 7 月 19 日 | 京都府右京警察署 | 地域の安全・安心等に関する協定 |
| 2018 年 4 月 1 日 | 株式会社ノーリツ | 株式会社ノーリツとの「おふろ部」に関する覚書 |
| 2021 年 5 月 14 日 | 京介食推進協議会 | 京介食推進協議会と産学連携プロジェクトに取り組むための包括協定 |
| 2021 年 10 月 7 日 | 株式会社エイデル研究所 | リカレント教育「次世代ケアワーカー育成プログラム」に関する協定書 |
| 2022 年 3 月 1 日 | 京都市 | 京都市と京都光華女子大学・京都光華女子大学短期大学部とのふるさと納税を活用した大学・学生と地域の連携強化等に関する協定書 |
| 2022 年 6 月 24 日 | 第一生命保険株式会社 | 地域社会の活性化及び発展に貢献することを目的とした「包括連携協定」 |
| 2023 年 6 月 13 日 | 京都市 | 健康創造に向けた相互連携に関する包括連携協定 |
| 2023 年 7 月 11 日 | 京都市農業協同組合<br>全国農業協同組合連合会京都府本部 | 地域の食育活動や地産地消の推進等に関する相互連携協定 |
| 2023 年 10 月 4 日 | 公益財団法人京都市スポーツ協会 | 健康・未来創造に関する包括連携協定 |
| 2024 年 1 月 25 日 | 京都ハンナリーズ（運営会社：スポーツコミュニケーション KYOTO 株式会社） | 健康・未来創造に関する包括連携協定書 |
| 2024 年 10 月 29 日 | 京都ダイハツ販売株式会社 | 包括的な連携に関する協定 |

## 3.2 本学のリベラルアーツ科目の取り組み

### ■ 産官学連携プロジェクト

地域連携推進センターが運営する正課科目として、「産官学連携プロジェクト」を開講しています。この科目は、大学のリベラルアーツ科目に設定されているため、すべての大学生が受講することができます。実際の課題をプロジェクトとして推進する過程で、学生は考える力やチームで働く力といった社会人としての基礎力を養成すると同時に、現場での実践力を高めます。これまでの連携先は、大手企業、地域の中小企業や商店街、NPO、福祉法人、学校など多岐に渡ります。

2025年度に開講された「産官学連携プロジェクト」

| | | |
|---|---|---|
| a | テーマ：京都の世界遺産社寺の地域特性・歴史的背景学習とフィールドワークを通じた魅力発見 | 連携先：真言宗御室派仁和寺 |
| | 担当教員：朝比奈　英夫（キャリア形成学科）、大島　祥子（キャリア形成学科） | |
| | 仁和寺は洛北双ヶ岡北麓に位置する真言宗御室派総本山で、1200年以上の歴史を持つ世界遺産です。国宝・重要文化財を擁する伽藍の魅力や地域との関わりを歴史的背景から探求し、持続可能な保存・活用を発信します。若者目線で文化財PRを推進。コンソーシアム京都「世界遺産PBL科目」として、他大学学生と教室・フィールドワークで協働します。 | |
| b | テーマ：商品メニュー企画を通じた企画提案力と販売促進力の養成 | 連携先：株式会社山田製油 |
| | 担当教員：酒井　浩二（キャリア形成学科） | |
| | 株式会社山田製油と連携し、ゴマプードルを使った商品を企画・開発します。工場見学と社員講義で企業理念を理解し、試食評価を通じて商品を改善。大学祭での販売を通じて、販売計画・販売促進・協働力を習得し、高い売上と顧客満足を目指します。 | |
| c | テーマ：若年性認知症への理解・支援の啓発活動の企画・実践 | 連携先：京都市長寿すこやかセンター、おれんじサロンひと・まち |
| | 担当教員：柿本　明日香（福祉リハビリテーション学科言語聴覚専攻）<br>関　道子（福祉リハビリテーション学科言語聴覚専攻） | |
| | 京都市長寿すこやかセンターと連携し、若年性認知症の理解と支援を推進します。当事者・支援者の方々との交流を通じて現状課題を把握し、啓発活動を企画・実践。学習と交流を通じてプロジェクト実践力とコミュニケーションスキルを習得します。 | |

**【2025年度産官学連携プロジェクト活動の様子】**

## 3.2-2 各学科の取り組み（一例）

本学では正課科目「産官学連携プロジェクト」だけでなく、各学科の特性・専門性に応じて、さまざまな企業や団体と連携した取り組みや授業を実施しています。

### ■ Ⅰ.食に関する連携

【京都市・イオンリテール株式会社との連携】「そうだ，野菜とろう！弁当」の販売
担当教員：齊藤　曜子、小島　菜実絵、下山　亜美（健康栄養学科）

京都市による『そうだ、野菜とろう !』キャンペーンに合わせて実施されている イオンリテール株式会社と管理栄養士養成校３校 ( 本学・同志社女子大学・京都女子大学 ) による産官学連携の弁当販売企画に５年連続で参加しています。2025 年度は健康栄養学科２年生と４年生が考案したレシピ『彩り 10 種野菜の鯖弁当』と『11 種野菜の９マス弁当』（各［598 円＋税］）を商品化しました。

【JA 京都市、JA 全農京都との連携】京野菜を使用したレストランメニュー開発
担当教員：原　正美（健康栄養学科）

JA 京都市・JA 全農京都と産学連携した「京都の食文化」授業で、九条葱や金時人参などの京野菜を使用したレシピ開発を行い、採用された５品が“みのるダイニング京都ポルタ店”で販売されました。学生達からは、栄養や価格は勿論のこと、京野菜の旬のおいしさ、食べ易さ、彩りや見た目などを意識して考案したことがとても勉強になり、京野菜の魅力に触れることができて、充実した楽しい取り組みだったとの感想が寄せられています。

## Ⅱ.医療・福祉に関する連携

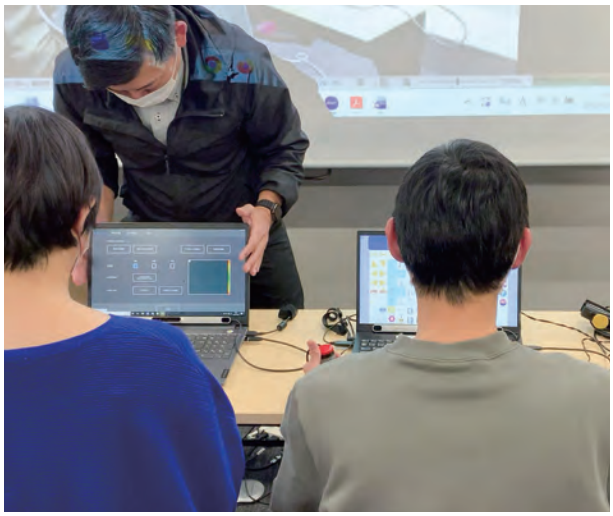
【公立豊岡病院組合豊岡病院栄養技術科との連携】
鉄を強化した一品の提供による妊娠後期および産褥期の女性の食意識と、鉄に関する知識に与える影響の調査
担当教員：橋本　理恵（健康栄養学科）

管理栄養士専攻橋本ゼミの４名の学生が、公立豊岡病院組合豊岡病院栄養技術科との共同研究を行いました。学生が考案した鉄を強化した一品料理を病院の献立に取り入れていただき、妊娠後期および産褥期の入院患者様に提供しました。その際に、鉄に関する知識を問うアンケート調査を実施し、鉄を強化した１品料理の嗜好調査や、家庭での鉄分補給の実現可能性について検討しました。

また、鉄が体に及ぼす作用をまとめたリーフレットを配布し、知識の向上についての調査も行いました。今回の研究を通じて、妊娠時の鉄補給の重要性を患者様に認識していただき、退院後も継続して自身や家族への鉄摂取を推進するリーフレットの配布により、家族全員の健康増進を図るきっかけになることに貢献できたのではないかと思います。

【地域の医療・福祉関係者と連携】難病療養者の地域生活を支える当事者参画型多職種連携研修会
担当教員：西田　美紀（看護学科）

在宅看護学の教員が地域の医療･福祉関係者と連携し､本学にて年に２～３回の地域研修会を開催しています。本研修会では特定の職種に限定せず、多職種を対象とし、当事者が講師や参加者として関わることを特徴としています。2025 年度は「在宅人工呼吸器装着者の外出支援」「重度訪問介護を利用する暮らし」「コミュニケーション機器のはじめ方」のテーマで開催し、各回 50 ～ 60 名の医療・福祉関係者が参加しました。認定難病看護師の資格を持つ看護教員が中心となり、地域に根ざした実践的な学びと連携の深化を図っています。



【京都市との連携】京都市の次期計画「京都市地域コミュニティと市民参加に関するビジョン（案）」に関する出張パブリックコメントを実施
担当教員：千葉　晃央（福祉リハビリテーション学科社会福祉専攻）

「京都市地域コミュニティと市民参加に関するビジョン」は、より多くの方の市政やまちづくり活動への参加を推進する市民参加の取組と、京都のまちづくりを支える地域コミュニティ活性化の取組を実現するための計画です。その案が京都市によって作られ、市民の率直な声をいただき、反映した上で正式に策定されます。そこに、京都市で社会福祉学を学ぶ「学生の声」を届けるために、授業に京都市の方をお招きし、出張パブリックコメントの機会を設けました。学生は事前に案や資料から学び、「社会福祉学的視点」も踏まえた上で、直接京都市職員の方にビジョン案についての意見を届けました。

【梅津地域包括支援センター、京都信用金庫梅津支店、京都民医連中央病院との連携】
梅津ワクワクサロンへの出張参加
担当教員：関　道子（福祉リハビリテーション学科言語聴覚専攻）

右京区の梅津地域包括支援センター、京都信用金庫梅津支店、京都民医連中央病院と本学が協力して 2025 年度から開催が始まった「梅津ワクワクサロン」に、学 Booo で活動している KOKA オレンジサポーターズのメンバーが出張しました。いつも大学の KOKA オレンジサロン（お口の介護予防サロン）で実施している、呼吸・発声や飲み込む力の測定などを来場者に体験してもらい、オーラルフレイル予防の啓発を行いました。

## ■ Ⅲ.地域に関する連携

【京都府右京警察署との連携】体験型講義・見学・啓発活動を通じた実践的教育
担当教員：河喜多　寛治・黒川　優美子（心理学科）

本学は右京警察署と「地域の安全・安心等に関する協定」を締結しており、心理学科でも様々な形で連携しています。本年度は、第一線の警察官や鑑識のプロの方を授業に招き、危機場面を想定した「護身術体験」や指紋・足跡の採取などの「鑑識体験」を実施しました。また、近隣にある「平成なでしこ交番」（女性警察官が常駐し、女性や子どもが安心して相談できる体制を整えた交番）を見学し、交番勤務の実際に触れました。さらに、犯罪心理ゼミでは、右京警察署交通課と協働し、学生が主体となって、自転車用ヘルメットの着用促進をテーマにした啓発動画の企画・構成・撮影に取り組みました。

【社会福祉法人大阪水上隣保館との連携】2025 年度桜バザーへのボランティア参加
担当教員：大谷　多加志（心理学科）

心理学科子ども・発達支援ゼミの学生たちが、社会福祉法人大阪水上隣保館が開催する桜バザーにボランティアスタッフとして参加しました。開催２日間で来場者は１万人に近い大規模イベントで、本学学生はプラ板やバルーンアート製作の補助やバルーン遊具での案内などを担当し、子どもたちが楽しく安全にイベントに参加できるようにサポートしました。

【右京区民生児童委員会との連携】第 16 回右京区サンサにこにこ広場への参画
担当教員：柳生　和代（こども教育学科）

右京地域体育館において「第１６回右京子育てサロン サンサにこにこ広場」にこども教育学科の４年生４人が参画しました。絵本をいかしたパネルシアターや親子でスキンシップを楽しめる遊びなどの準備をしたところ、０歳から３歳までの子どもとその保護者の方が１４０組も来てくださり、京都光華女子大学のコーナーも大盛況でした。 地域の様々な役割を担う方々と共に、子育て支援の一端を担うことができ、大きな学びとなりました。

## 3.3 公開講座

本学では、本学教員の専門知識や研究成果を広く一般に公開し、地域の方々に生涯学習の場を提供することを目的として公開講座を開講しています。「健康・未来創造キャンパス」を目指す本学は、すべての人が健やかに暮らせるウェルビーイングな未来を創るという観点から、シリーズ形式で講座を行っています。2025年度は「こどもの発達・健康」「災害・防災」というテーマについて、さまざまな学科の教員が多様な視点でテーマに沿った講座を開講しました。

公開講座（2025年度）

| シリーズ①【こどもの発達・健康】 | |
|---|---|
| 実施日 | 講座タイトル・講師 |
| 4月19日 | こどもの吃音　理解と支援の第一歩<br>高井　小織（福祉リハビリテーション学科　言語聴覚専攻） |
| | こどもの手の発達と遊び<br>北山　淳（福祉リハビリテーション学科　作業療法専攻） |
| 5月31日 | こどもの育ちと造形表現<br>下口　美帆（こども教育学科） |
| | こどもの発達とグリーフケア<br>茎津　智子（看護学科） |
| 6月21日 | こどもの心と育ちを支えるために大人にできること<br>大谷　多加志（心理学科） |
| | こどもの食と発達<br>和井田　結佳子（健康栄養学科） |

| シリーズ②【災害・防災】 | |
|---|---|
| 実施日 | 講座タイトル・講師 |
| 7月5日 | 防災に役立つキャンプスキルを体験しよう～講義編・実践編～<br>森本　かえで、瀬川　大、岡山　友哉（福祉リハビリテーション学科　作業療法専攻） |
| 9月6日 | 住まいとまちの安心・安全を考える　― 今できる内容を一緒に考えます ―<br>大島　祥子（キャリア形成学科） |
| | 災害時にもお口のケア！～毎日の歯磨きにも活かせる、お口の健康とは～<br>頭山　高子、尾形　祐己（歯科衛生学科） |

## 3.4 健康・未来創造キャンパスを目指して

京都光華女子大学では校訓「真実心」のもと、すべての人が健やかに暮らせる“Well-Being”な未来の実現を目指し、「人々の”健康”と”未来”を創造する大学（≒健康・未来創造キャンパス）」創りを進めています。

医療、福祉、栄養、スポーツ、教育、心理、社会、ライフデザインなど幅広い分野の研究･教育を通して人々の「健康」と「未来」を創造する人材を育成し、社会に輩出してきました。

高い教育・研究力を備えた人材育成拠点として、また、地域に開かれ、人々に寄り添うキャンパスとして、すべての人のWell-Being向上に貢献するさまざまな取り組みを行っています。

### ■ 地域連携学生組織「光華リエゾンクラブ」

「光華リエゾンクラブ」では、地域のさまざまな世代の人々と交流するイベントなどの企画･実行を学生メンバーが主体的に行い、人と人をつなぎ地域の課題に取り組んでいます。ボランティア活動のほか、地域の方のWell-Being に寄り添うイベント・取組をさまざま行っています。

例：光華ワクワク×健やかフェス学生実行委員、光華こども食堂プロジェクト、京都マラソンボランティア　等

### ■「光華ワクワク×健やかフェス2025」の開催

地域交流の場として本学を開放し、本学が取り組んでいる健康・未来創造キャンパスの実現に向けた教育研究活動や社会貢献活動を紹介することを通して、地域にお住まいの方が「来場された時よりも健やかでワクワクした気持ちになれる1日を作る」というコンセプトのもと開催しています。第3回となる今回は、光華フェス史上最大となる51ブースが出展し、1,868名の方にご来場いただきました。

当日はキャンパスを「ワクワクエリア」「健やかエリア」「フードエリア」に分け、幅広い年齢層の方々にお楽しみいただけるような催し物や体験イベントを実施しました。また、「地域のワクワク・イキイキに繋がるパフォーマンス」をテーマにしたステージ企画や、地域の防災力向上を目的とした「防災体験エリア（協力：右京消防署）」も新たに設けました。一日を通して盛んに交流が行われ、キャンパス全体に活気があふれる“ワクワク＆健やか”な一日を共創することができました。来場者からは「地域の方と大学をつなぐとても良い取り組みだと思いました」「地域向けのイベントを開催して頂き嬉しく思います」という感想があり、地域のWell-Beingの向上に寄与する機会となりました。

### ■ リカレント教育プログラムの実施

すべての人が健やかに暮らせる”Well-Being”な社会の実現を目指し、社会人向けにリカレント教育プログラム「共に生き未来を創るウェルビーイング講座」を開講しています。2025年度は、日常生活にあふれるデータや確率をテーマに、暮らしの中で役立つ統計学について学びました。データを正しく理解し活用する力を身に付けることで、より豊かで安心できるWell-Beingな暮らしを考える機会となりました。

## ■「光華こども食堂」の開催

地域交流の場、子どもの居場所づくりを目的とした光華こども食堂プロジェクトを2023年度に立ち上げ、これまでに計8回、こども食堂を実施しています。 過去の実施回では、受付開始から数日で定員に達するなど、毎回満員となり、地域住民の方に広く認知され、大好評のイベントに成長しました。

“誰もがワクワクできる場所に”という思いのもと、学生や教職員が学年や学部を超えて、それぞれの専門性を活かしながら、多職種が連携する本学ならではのこども食堂を目指し、各回のテーマや当日提供するメニューのレシピ、交流企画の内容、広報チラシ作成など、すべての企画・運営を学生が行っています。

## ■ 新たな地域交流イベント「光華キッズなフェスタ2025」の開催

地域の子育て世代を応援し、子どもたちの健やかな成長を願うイベントとして、「光華キッズなフェスタ」を初開催しました。本イベントは、"子どもと「絆」を深める日"をテーマとし、本学園が有する幼稚園から大学までの学びを活かした、多彩な企画を展開するものです。

2025年11月1日（土）に、本学南校地のグラウンドと光華小・中学校校舎「和順館」をメイン会場として開催し、847名の方にご来場いただきました。全体満足度99%、次回への期待度97%と高評価をいただき、「光華に興味がわきました！」「学べながら楽しく遊べてよかった」などの声が寄せられ、地域のWell-Being向上に貢献しました。

会場は「RunRunゾーン」「FunFunゾーン」「PakuPakuゾーン」の3つのエリアに分かれており、各エリアでは子どもたちが主役のワクワク感あふれるワークショップや体験が数多く行われました。「RunRunゾーン」では陸上体験やフットボール教室等で元気いっぱい体を動かし、「FunFunゾーン」ではランタンづくり、野菜を使った食育、伝統文化体験等で楽しみました。学生実行委員会を結成し、大学生は企画運営を通じて、「チームで助け合い成長できた」「臨機応変な対応を学んだ」と振り返り、実践的な学びを得ました。本イベントを通して、地域の子どもたちの健やかな発達を支援し、地域との絆を深める機会を創出できました。

## ■ 基幹研究「食品の開発（機能性食品・嚥下調整食品）と情報提供体制の構築」

摂食嚥下機能が低下した方に向けた嚥下調整食や、機能性食品の種類や普及が充分ではない情勢を受け、これらの食品の開発と普及活動を産学連携によって推進する研究を行っています。今年度は、EXPO2025大阪・関西万博でこれまでの研究成果を公開しました。また、機能性和菓子（希少糖羊羹）の効果検証、京都の有名店の和菓子の物性評価及びHPでの情報公開、京都食ビジネスプラットフォームで開発中の嚥下調整食品の物性評価等を実施しました。

| | |
|---|---|
| 研究担当 | 吉川　秀樹（健康栄養学科 教授）　関　道子（福祉リハビリテーション学科言語聴覚専攻 教授）<br>下山　亜美（健康栄養学科 准教授）　橋口　美智留（健康栄養学科 准教授）<br>二井　麻里亜（健康栄養学科 講師） |

血糖値上昇抑制効果がある
希少糖を使用した羊羹

ノンカフェイン、葉酸やミネラル・食物繊維が
豊富な「キハダ」の葉を利用したカヌレ

飲み込みやすさに配慮した
「嚥下調整食和菓子」

## ■ 大阪・関西万博で本学の研究成果を発信

本学は「すべての人にしあわせを。」というミッションのもと、2021年にTEAM EXPO共創パートナーに登録し、およそ4年をかけてEXPO2025大阪・関西万博に向けた準備・取り組みを行ってきました。会場では「やわらか和菓子」や介護食器、ウェルネス和菓子やウェルネス・スイーツといった「食のバリアフリー化」を目指す本学の研究についての展示やステージ発表のほか、日本の伝統文化を未来につなぐサステナブルなものづくりについても紹介しました。また、関西大学、甲南女子大学、武庫川女子大学、森ノ宮医療大学との5大学連携プロジェクトでは、「健康・ウェルビーイング」をテーマに学生が孤立防止、地域健康増進、食育・フードロス対策などの社会課題解決アイデアを議論・共創し、TEAM EXPOパビリオンでの発表・展示に向けた活動を推進しました。計4回の参加を通じて、延べ10,000人以上の方に本学のブースにご来場いただき、本学の研究成果を国内外に広く発信できた機会となりました。万博参加をレガシーとして今後も本学では、すべての人が豊かに暮らせるWell-Beingな社会の実現に向けて、教育･研究活動を推進してまいります。

## ■ 社会共創パートナー事業の立ち上げ

本学は「すべての人の幸せに“つなぎ・つながる・つなげていく”社会」を共に創る「社会共創パートナー」事業を推進し、企業・自治体・NPOと連携して教育改革を進めています。本学の「健康・未来創造キャンパス」を拠点に、ヘルスケア支援、循環型プロダクト開発、地域課題解決プロジェクトなどを共創し、2026年4月開設の社会学部社会共創学科では学生がパートナーと連携して、新サービス･イベントを企画･実装を検討しています。社会共創パートナーと共にWell-Beingな社会の実現と人材育成に取り組み、地域の持続可能な発展を支えていきます。

社会共創パートナー登録数：122団体（2026年1月13日時点）

# 【関連施設】

## ■ 光華もの忘れ・フレイルクリニック

「光華もの忘れ・フレイルクリニック」を開院して、2025年11月で4年が経過しました。開院以来、大学ならではの視点を生かし、地域の皆さまが安心して暮らせるよう、地域包括ケアの一端を担う施設として心と健康に寄り添ったクリニックを目指しています。また、大学の併設施設として、看護･リハビリ・福祉・栄養などの分野を学ぶ学生の実践力・応用力の養成にも貢献しています。

当クリニックでは、認知症やその予備段階であるフレイル状態（虚弱状態）について、全身の筋肉量、骨密度測定、血液検査、認知機能検査、脳画像評価などを行い、日常生活で気を付けるべきことの助言、必要な場合は治療を実施しています。また、インフルエンザの予防接種も開始し、地域の方々の健康増進と地域医療の発展に努めています。

## ■ 食共創研究所

食共創研究所は、食の新たな可能性を切り拓く研究・開発拠点として2025年4月に設立しました。現代社会において、食は単なる栄養補給や“おいしさ”だけでなく、体の機能を調整し、健康を支える重要な役割（生体調節機能）を担っています。一方で、機能性食品はまだ若い世代や日常的な食生活で十分に活用されていない現状が課題です。当研究所では、栄養士・管理栄養士を目指す学生と教職員が、食品関連企業や地域企業と連携し、京都の伝統的な食文化も取り入れながら、あらゆる世代の方が美味しく楽しめる機能性食品やメニューの開発に挑戦します。産学連携による「食」のイノベーションを通じて、一人ひとりのWell-Beingな社会の実現を目指していきます。

# 4. エコキャンパスの推進

第16回　KOKAエコアワード
ポスター部門　金賞

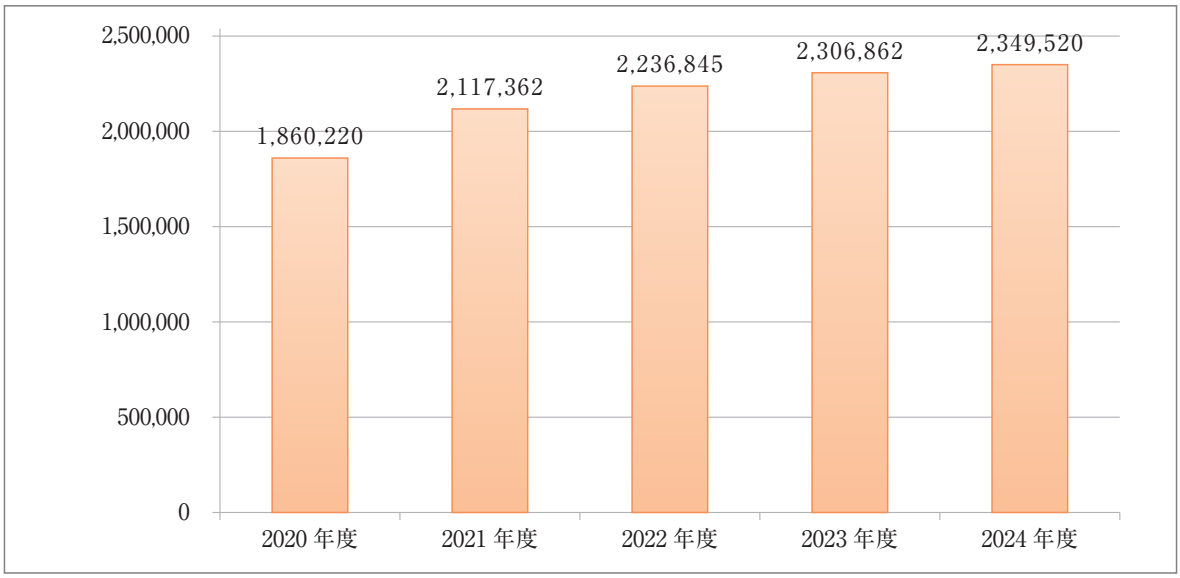
「スマホの中だけきれいでいいの？」

第16回　KOKAエコアワード
作品部門　金賞

「もりのおんがくたい」

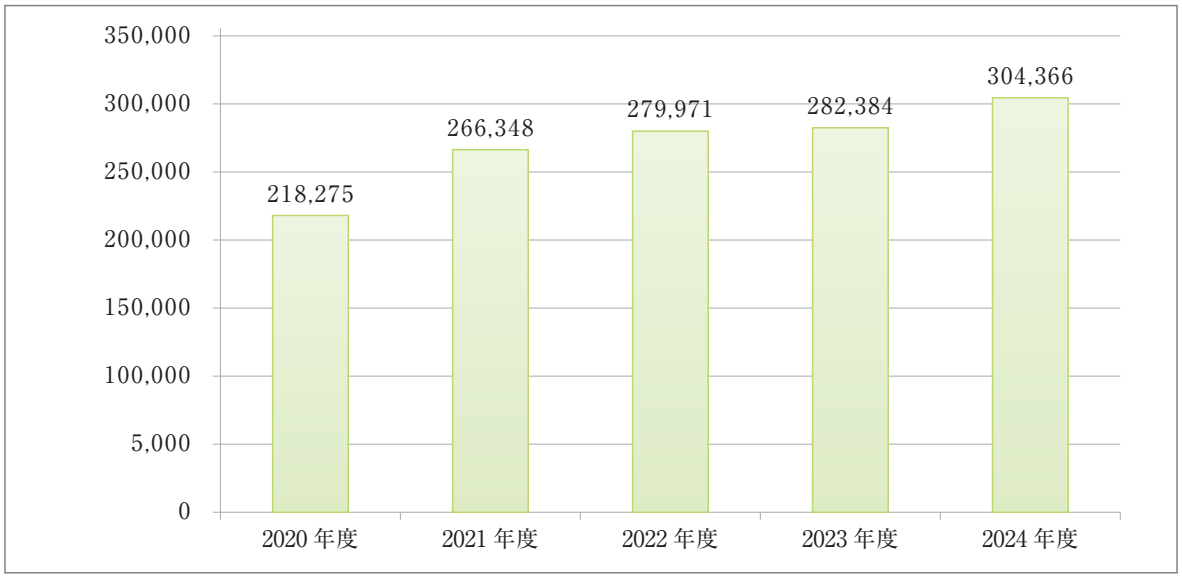
## 4.1 学園における各種エネルギーの使用状況

❶電気エネルギー消費量（KWH／年）



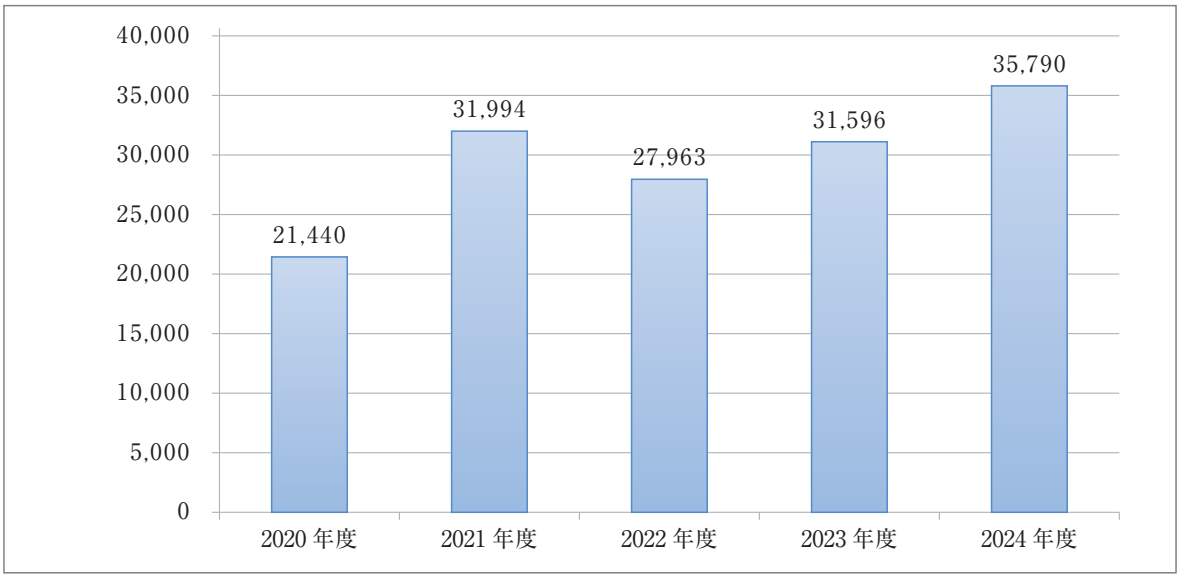

学園全体における電気エネルギー消費量について、2020年度の減少と2021年度の増加は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため大学で完全オンライン授業を実施していたものが、対面授業が再開されたことに起因しています。節電対策として高効率型照明器具（LED）の導入のほか、クールビズ・ウォームビズの実施等に取り組んできましたが、2021年度以降は少しずつ電気エネルギー消費量が増加傾向に転じています。要因としては、近年の異常気象と気候変動に伴う急激な温度上昇により夏場の熱中症対策でエアコンの使用量が増加したり、教育活動において電子機器の活用ケースが増加したりしていることが考えられます。引き続き節電対策に努めてまいります。

❷ガスエネルギー消費量（㎥／年）



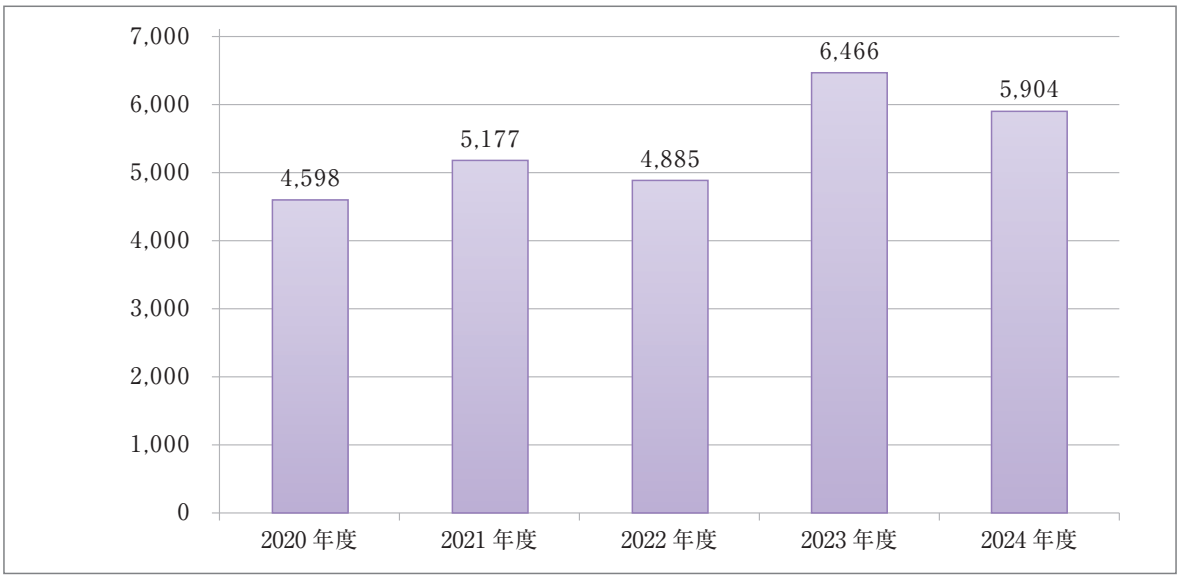

学園全体におけるガスエネルギー消費量は、対面授業再開に伴い2021年度以降は増加傾向に転じています。主な要因として、新型コロナウイルス感染拡大防止のための完全オンライン授業から対面授業への移行、北校地（主に大学）の使用割合の高さ（全体の半分以上）が挙げられます。2024年度は冬期の気温が平年並みまたはやや低めで暖房需要が増加した可能性があり、夏期の高温による熱中症対策も間接的に施設稼働を押し上げたと推測されます。引き続き省エネ対策に努めてまいります。

❸水道水使用量（㎥／年）



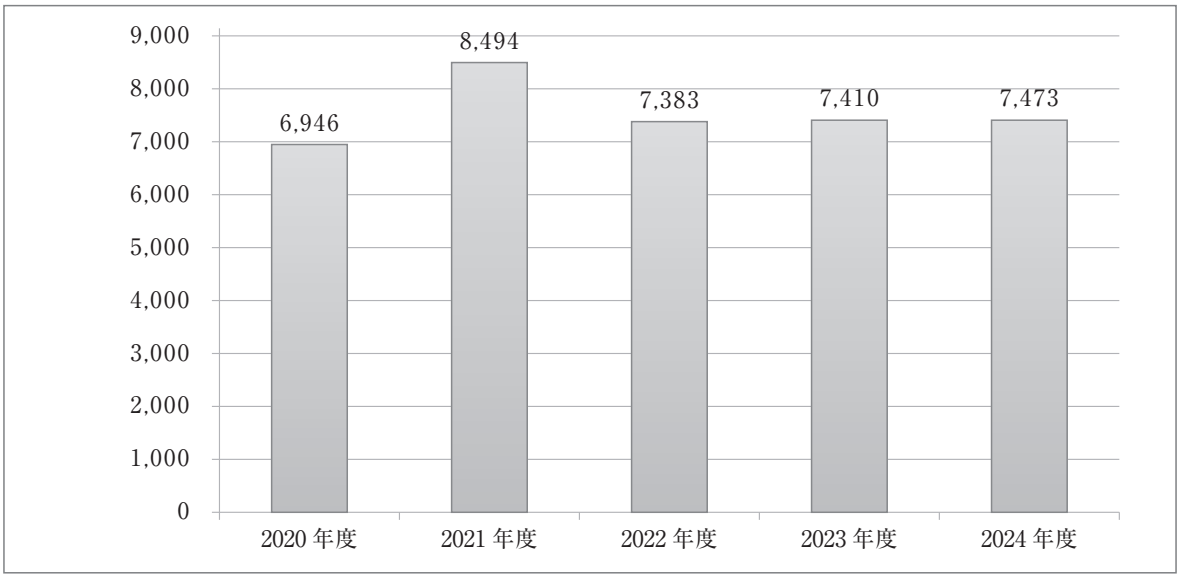

学園全体における水道水使用量は、電気・ガスエネルギーと同様に、2020年度の完全オンライン授業と、2021年度の一部対面授業の再開が反映された結果となっています。水道使用量も近年の異常気象と気候変動に伴う急激な温度上昇等により、夏場の熱中症対策等の影響で増加傾向が見受けられました。

❹ガソリン消費量（ℓ／年）




ガソリン消費量の大半は大学および中高校の学生募集活動による公用車の使用によるものです。2024年度は近隣地域（京都・滋賀・大阪）を中心に訪問活動を行ったことと、こまめなアイドリングストップなどのエコ運転の徹底により、消費量を減少することができました。

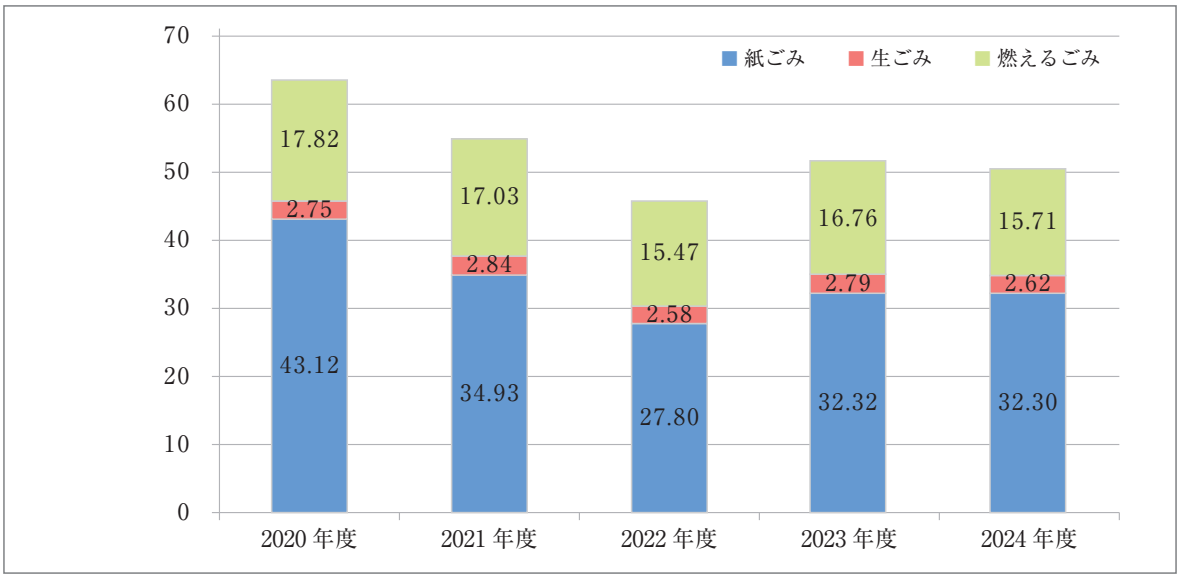
## ❺軽油消費量（ℓ／年）




軽油消費量の大部分は幼稚園児送迎用のバス（ディーゼル車）によるものです。こまめなアイドリングストップ等といったエコ運転を心がけていることで、軽油消費量は前年度から大きな変化はありませんでした。

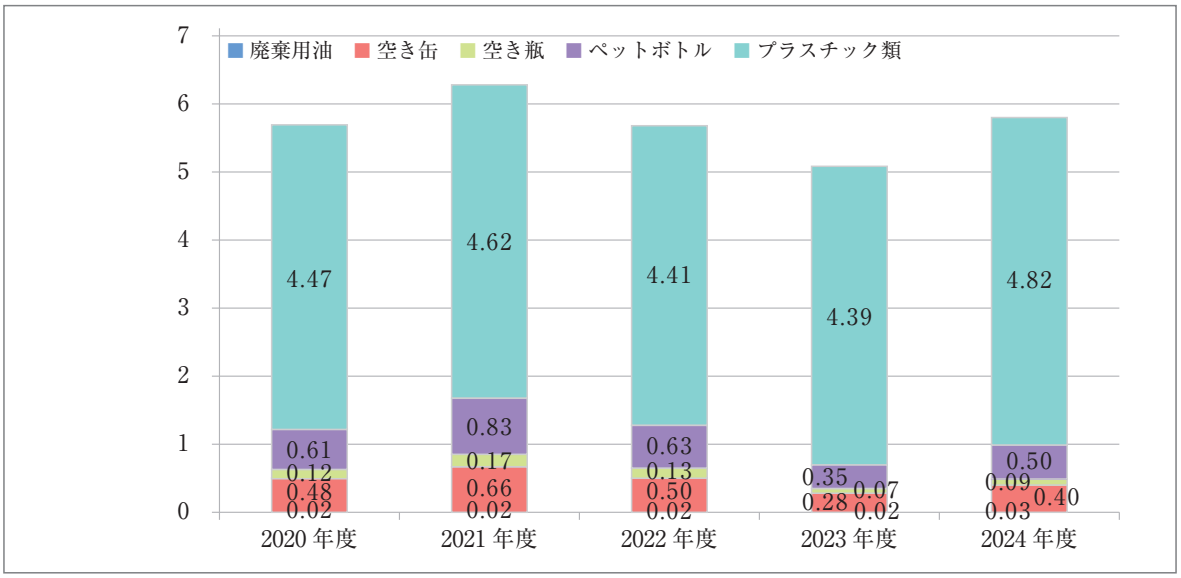
## ❻廃棄物排出量

●事業系廃棄物（トン／年）




事業系廃棄物発生量はコロナ禍以前と比較し全体的に減少傾向にあります。項目別に見ると、特に全体の中でも割合の大きい紙ごみが減少しています。減少した要因は、ペーパーレス化の推進と燃えるごみ・生ごみに混在する紙ごみ（いわゆる雑紙）を分別により資源化したことによるものです。徹底した分別により、ごみをごみとしてではなく再資源化する取り組みを今後も推進していきます。

●産業廃棄物（トン／年）




学園全体における産業廃棄物排出量は、2020年度に前年度比約31%増加（4.34t→5.7t）した後、2021年度にさらに増加（6.3t）しました。その後、廃棄物削減活動の効果で2022年度以降は減少傾向となりましたが、2024年度は前年度比約14.3%増の5.84tと増加に転じています。主な要因として、プラスチック類（4.82t、前年比+9.8%）の増加が全体を押し上げており、事務・教育活動の活発化や包装材使用増加が予想されます。引き続き分別回収・リユース促進に努めてまいります。

## 4.2 KOKA エコアワード

平成22年の学園創立70周年を記念して設立されたKOKAエコアワードは、2025年度で16回目を迎えました。この取り組みは幼稚園から大学・大学院までの本学園で学ぶすべてのものを対象とし、エコ活動を啓発する作品（標語・短歌（和歌）部門、ポスター部門、作品部門、作文部門）を広く募集するものです。また、「標語･短歌（和歌）部門」については、本学園が取り組む環境活動に関心のある方や本学園のお取引先様など、本学園に関係するすべての方からのエントリーを可能としております。今年度は皆様から合計825件の作品をご応募いただき、優れた作品に対して表彰をおこないました。

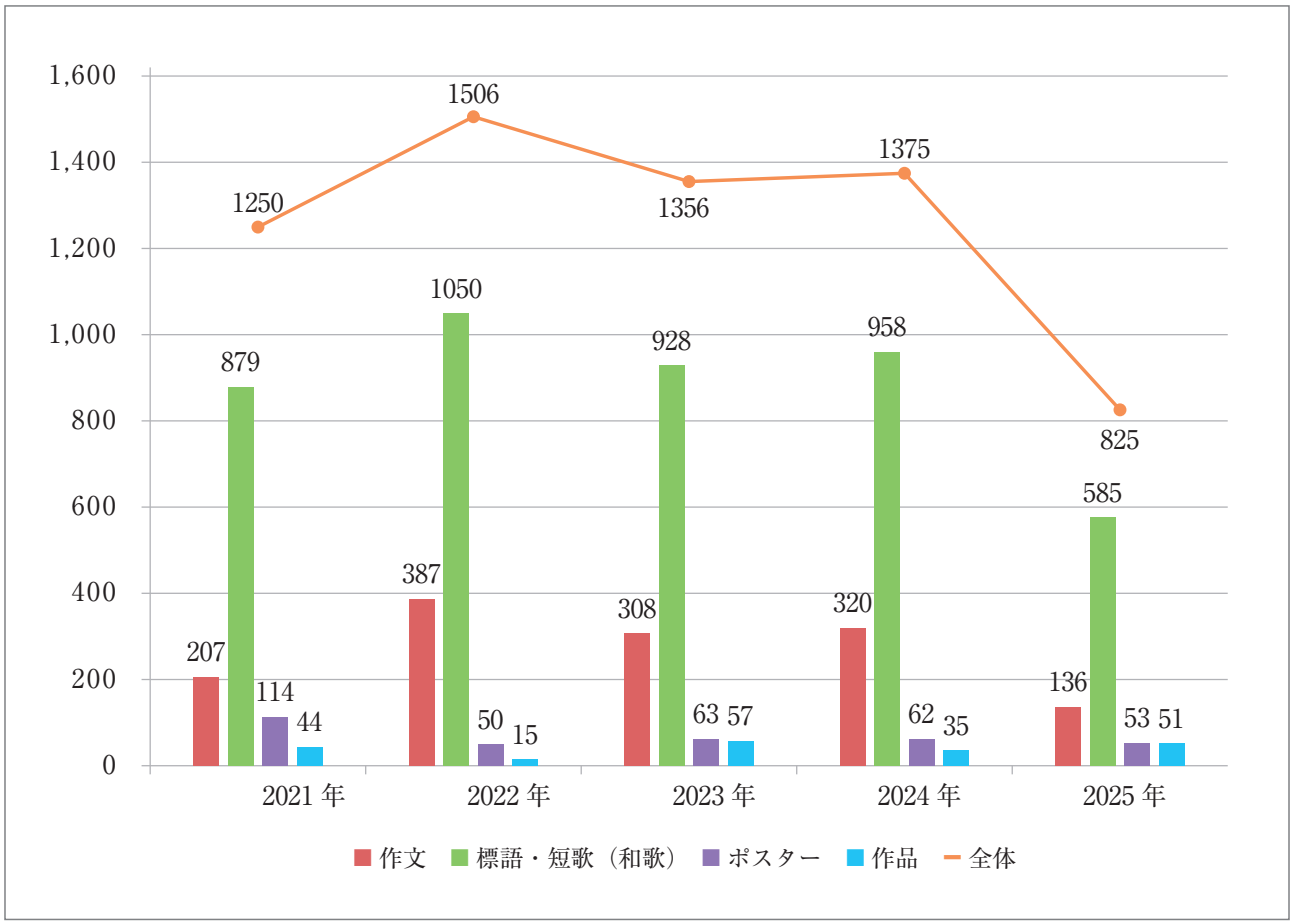
【趣旨】

「エコ」という言葉は現代社会に浸透してきたものの、「エコ活動」はまだまだ家庭にも社会にも浸透している訳ではありません。次代を担う学生・生徒や児童・園児たちに、美しい地球、住みよい環境を継承するため、低炭素社会の実現は現代社会が取り組むべき喫緊の課題です。本学園ではそれぞれの校園において、講義、授業、課外活動やボランティア活動を通し、学齢にあった環境教育に力を注いでおり、保護者の皆様はもとより、各方面からご理解と高い評価をいただいております。

そこでこの度、院生・学生・生徒・児童・園児の皆さんにエコ意識をさらに啓発し、私たち個々が今、何をなすべきかを考え、表現するとともに、身近なところから「エコ活動」に取り組む機会として、創立70周年を迎える光華女子学園に「KOKAエコアワード」を設立いたします。（『学園創立70周年記念「KOKAエコアワード」啓発作品募集要項』より）

## エコキャンパスの推進

●KOKAエコアワード応募作品数の推移




【学生・生徒・児童・園児】

| | 作文 | | 標語・短歌（和歌） | | ポスター | | 作品 | | 全部門 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 2024 年 | 2025 年 | 2024 年 | 2025 年 | 2024 年 | 2025 年 | 2024 年 | 2025 年 | 2024 年 | 2025 年 |
| 大学・短大 | 189 | — | 300 | 40 | 0 | — | — | — | 489 | 40 |
| 高等学校 | 88 | 94 | 300 | 262 | 17 | 20 | — | — | 405 | 376 |
| 中学校 | 0 | 0 | 105 | 82 | 0 | 0 | — | — | 105 | 82 |
| 小学校 | 43 | 42 | 134 | 131 | 43 | 31 | 31 | 45 | 251 | 249 |
| 幼稚園 | — | — | — | — | 2 | 2 | 4 | 6 | 6 | 8 |
| 計 | 320 | 136 | 839 | 515 | 62 | 53 | 35 | 51 | 1256 | 755 |

【お取引先様・卒業生・教職員等】

| | 標語・短歌（和歌） | |
|---|---|---|
| | 2024 年 | 2025 年 |
| お取引先様・卒業生等 | 32 | 8 |
| 学園職員 | 33 | 5 |
| 大学・短大職員 | 0 | 1 |
| 中学・高等学校職員 | 0 | 2 |
| 小学校職員 | 36 | 41 |
| 幼稚園職員 | 18 | 13 |
| 計 | 119 | 70 |

| 総数 | 2024 年 | 2025 年 |
|---|---|---|
| | 1375 | 825 |

## ●2025年度受賞作品　（金賞・銀賞・銅賞・第一生命特別賞のみ掲載）

### ❶標語・短歌（和歌）部門

**＊＊＜学生・生徒等の受賞作品＞＊＊**

**金賞**
ヒトのせい　猛暑続きに　急雷雨
ドカンと落ちる　空のいらだち
受賞者　高校3年生　浜辺　千尋

**銀賞**
インスタ映え　食べられないなら
買わないで
受賞者　小学校6年生　水内　康誠

**銅賞**
インスタで　学んだリメイク　トライして
物を大事に　使う喜び
受賞者　高校1年生　中井　穂之香

**第一生命**
ポイ捨てに　気づいて拾う　その一歩
地球がそっと　笑ってくれる
受賞者　中学校3年生　安田　妃那

**＊＊＜大学生・教職員の受賞作品＞＊＊**

**金賞**
広告の裏　「もったいない」とメモ帳に
再利用させる　百歳の祖母
受賞者　小学校　教員　吉岡　寛和

**銀賞**
ゴミ拾う　小さな手にも　願いあり
街をきれいに　未来のために
受賞者　キャリア形成学科1年生　岡　麻由

**銅賞**
男女とも　日傘をさして　歩む街
地球の熱を　やさしくかわす
受賞者　国際交流センター　須藤　和恵

**第一生命**
当たり前　ゴミはゴミ箱　プラはプラ
捨てる場所から　意識改革
受賞者　キャリア形成学科1年生　飯田　実里

**＊＊＜卒業生・保護者等・関係先様の受賞作品＞＊＊**

**金賞**
エレベーター　使わず痩せて　地球も笑顔
息切れしつつ　心は晴れる
受賞者　2006年度卒業生　田中　早織　さま

**銀賞**
脱炭素　母は知らない　有機物
それでもできる　ゴミの分別
受賞者　高校2年生保護者　佐藤　美和　さま

**銅賞**
かいま見せた　未来の暑さ　忘れずに
明日思いやる　じみにエコ活
受賞者　1990年度卒業生　笹間　ゆかり　さま

**第一生命**
孫の世に　残してやれる　財産は
澄んだ空気を　生む心掛け
受賞者　1981年度卒業生　船越　久美子　さま

## ❷ポスター部門

金賞

受賞者「スマホの中だけ きれいでいいの？」
小学校４年生　岩田　ゆき

銀賞

受賞者「それ　むきすぎ」
高校３年生　浜辺　千尋

銅賞

受賞者「甘い考え　溶けます」
高校３年生　上田　有紗

## ❸作品部門

受賞者「もりのおんがくたい」
幼稚園さくら組　尾﨑　蓮

金賞

銀賞

受賞者「かくれミャクミャク」
小学校１年生　大森　蒼馬

銅賞

受賞者「暑い夏に 涼しいイメージ」
幼稚園さくら組
中山　桃香

## ❹作文部門

金賞

受賞者「ウミガメを守りたい」
小学校５年生
人見　珠樹

銀賞

受賞者「地球環境を 守るために」
高校１年生
山内　こころ

銅賞

受賞者「世界は海で つながっている」
小学校５年生
桑原　瑞樹

## 4.3 未来を創る！サステナビリティアワード

2025年度から「KOKAエコアワード」に続く新たなアワードとして「未来を創る！サステナビリティアワード」を開催しました。本アワードは、仲間や地域とともに、『持続可能なまちづくり』や『人を笑顔にする活動』にチャレンジしている大学生・短大生の優れた取り組みを年1回表彰し、実践の場での学びや共創の姿勢を育むことを目的としています。初年度となる今回は13団体からエントリーがあり、厳正なる審査の結果、以下の5団体が受賞となりました。

### 金賞　プロジェクト名：食物アレルギーに配慮した災害時に役立つレシピ開発

【プロジェクト紹介】

2024年1月の能登半島地震での被災経験から、避難所におけるアレルギー対応の難しさや、非難生活の困難さを実感した。私たちは栄養面から支援したいと考え、被災して現在も仮設住宅で生活されておられる方々に、食物アレルギーに配慮した災害時に役立つレシピ提案と調理指導をするとともに、健康意識の向上につながる栄養セミナーを実施しました。さらに京都の地でも活用され、地域の支えとなることを目指しています。

### 銀賞　プロジェクト名：世代間交流・共生プロジェクト

【プロジェクト紹介】

京都市中京区柳池学区のまちやキャンパスを拠点に、高齢者の孤立・孤独を防ぐことを目的に、スマホの使い方講座と手芸部を継続的に開催してきました。11月からは中京区教業学区にて防災訓練やデジタル回覧板の登録・使用の支援に取り組んでいます。中京区まちづくりアドバイザーや京都市長寿すこやかセンター職員、中京区社会福祉協議会職員等より応援を得ることで効果的な活動を実現しています。

## 銅賞　プロジェクト名：酒づくりと人の繋がり～京都伏見の伝統文化を通じて～

【プロジェクト紹介】

若者の日本酒離れが進む中、京都の伝統産業である伏見の酒造業も厳しい状況にあります。私たちはこの課題に対し、招徳酒造株式会社と連携し、若い女性層に親しまれる日本酒の企画に取り組んでいます。これまで、大学名にちなんだ「光・華」の日本酒を3年連続で開発するとともに、新しい飲み方の提案にも挑戦してきました。試飲会を開催し、延べ300名以上の方に参加していただき、日本酒の魅力を伝えることができました。

## 銅賞　プロジェクト名：光華こども食堂プロジェクト（おいでよ！こうかわくわく食堂）

【プロジェクト紹介】

学年や学部を超えた学生が集まり、“誰もがワクワクできる場所に”というテーマのもと「おいでよ！光華わくわく食堂」を開催しています。子どもが楽しめる交流企画や制作、食事をすべて学生が企画し、実施している。来場者アンケートでは、満足度90％という結果となり、来場者のWell-Being向上に確かな貢献ができたと感じています。学生にとって、地域とのつながりを深め、成長を感じらる経験となっています。

## 銅賞　プロジェクト名：畳グッズ開発プロジェクト

【プロジェクト紹介】

2021年、産学連携の授業で地元の畳店を取材したことに始まります。日本伝統の「畳」の持つ特徴やイメージを生かし、学生が主体となり日常で使いやすいデザインを考えながら、伊藤畳店、アムツムグと協働で、企画･制作･販売まで一連の流れを経験し、ものづくりの楽しさや表現の幅の広さを体験することを目的に活動する産学連携プロジェクトです。2021年以降、先輩から後輩へグッズとともに受け継がれています。

# 5. 各校園の環境教育、環境活動

*Koka Kindergarten*

*Koka Elementary School*

*Kyoto Koka Senior High School*
*Kyoto Koka Junior High School*

*Kyoto Koka Women's University*
*Kyoto Koka Women's College*

## 5.1 光華幼稚園

幼稚園では毎年恒例となっている野菜の苗植えにむけて、
年長児が進んで畑の草抜きをしている姿がみられます

こんなにたくさんとれた

ここにもいっぱい
あるよ

春

草抜きが終わったら土を耕します

おいしくな～れ～

つちをやわらかくするよ

「これはなにかな？」
「虫がいる！」など
茎の匂いや葉の感触
など、自然への興味も
広がります

どこにうえようかな？

苗を植えて、土を優しくかけています
「ねんね～」「土のお布団だよ～」など声を
かけて成長を楽しみにします

土の感触を確かめながら植えます

たねいもをうえるよ

夏

きゅうりのあかちゃん
はっけん！

こんなにおおきく
なったよ！

小さなきゅうりがこんなに大きくなりました
みんなで触って感触を確かめています

オクラもできたよ！

土を掘ると次々に出てくるじゃがいもに驚きと喜びを感じています

大小さまざまな形を比べています

いっぱいとれたよ

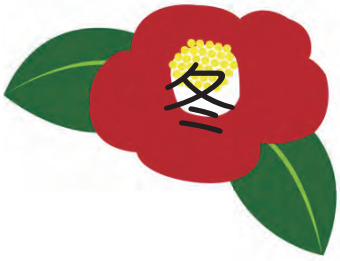
おいしそうな
じゃがいも！

収穫した野菜は、お泊まり保育で食べるカレーに入れてみんなで食べました
栽培活動や収穫体験を友だちと共有する中で、野菜を育てることの苦労や喜びを感じています
また、このような経験から、食べものを作ってくれた方へ感謝の気持ちも育ちます

## 秋の遠足

牛乳パックを再利用して「どんぐり入れ」のポシェットを手作りしました

どんぐり、ここにも
いっぱいあるよ！




いっぱいひろったね

廃材製作を通して身近な素材に親しみ、自分なりの発想で形にする楽しさを味わっています

子どもができるエコ活動は、特別な取り組みではなく、あそびの中で廃材や自然物に触れる経験や、日々の生活の中で「ものを大切にする」「もったいない」という気持ち、そして身近な環境への気づきを重ねることで、自然と身につけていきます

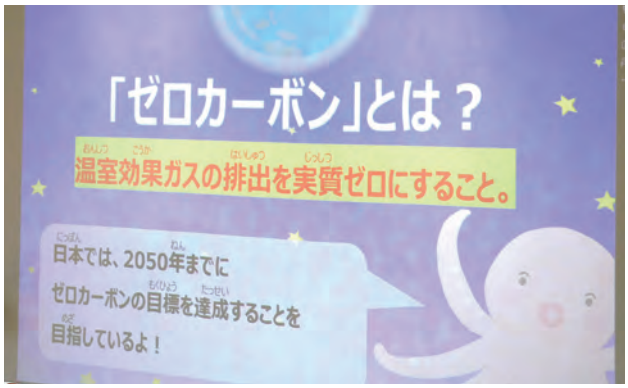
## 5.2 光華小学校

❶光華環境月間（9月）

2025年度は9月を「光華環境月間」とし、地球環境問題の現状について学びました。さらに、学んだことをもとに、身近な環境問題の解決方法・環境保護につながる活動について、話し合ったり、取り組んだりしました。また、各学年では、エコ工作や標語の作成などのさまざまな活動に取り組むことで、子どもたちは環境問題を身近なものとして意識し、改善に努める月間となりました。

**① 全校での取り組み　「光華環境月間」～めざせ！地球にやさしい光華小学校～**

地球環境問題の現状について学び、各学級で取り組む環境保護につながる活動を設定しました。まず、世界ではどのような環境問題が起こっているのかを知り、それらの原因や生活に及ぼす影響などについて、図やイラスト、写真などのスライドを活用して学びました。さらに、二酸化炭素排出量の推移や地球にやさしい移動手段などについて、環境問題クイズを通して楽しみながら考えることができました。学んだことを踏まえて、現在自分たちの学級や光華小学校ではどのような課題があるのかを話し合い、それらを改善するために取り組めそうな活動を学級ごとに設定し、実践しました。「残飯を半分にしよう」「教室を出るときは必ず電気を消そう」など、クラスの現状を踏まえた具体的なアイデアがたくさん挙げられ、協力して取り組む子どもたちの様子が見られました。最後に、1週間実践した後、クラスで振り返りの時間を設定しました。「意識して節電や節水に取り組むことで、今まで電気や水を無駄遣いしていたことがわかった」「1週間実践したけど、これからも続けていきたいと思う」などの子どもたちの意見から、自分たちの行動が問題改善につながることを強く実感できたことが伝わってきました。



**② 各学年の取り組み**

【1年生】…エコ工作に取り組みました。自分たちの身の回りにもたくさんの環境問題が存在することを気づかせるために、食品の容器（紙パック・ペットボトルなど）を家から持ってきて、普通ならそのままゴミになるのをエコ工作としてかわいい／かっこいい作品に生まれ変わらせる時間としました。ネコや犬、恐竜などの動物を作ったりロボットを作ったり…1年生ならではのかわいらしい作品がいっぱいできました。環境問題は、1人だけ・1回だけ行っても意味がありません。子どもも大人も、この国に住む全員が継続的に・使命感をもって取り組むこと、義務ではなく習慣として取り組む必要があると考えています。児童たちには、学校でも家でも自分でできる活動をずっと続けていける人になってほしいです。

【2年生】…エコ標語に挑戦しました。標語を作成するにあたって、最初にクラスのみんなで環境問題について話し合いました。「温暖化によって、どんなことが起こっているのだろう？」２年生に温暖化のメカニズムの授業をしても難しいので、スライドを使って、温暖化がもたらすさまざまな影響を知りながら、クイズ形式で学びました。「自分たちが住む地球がこの先、温暖化によってどうなってしまうのか？」「どうしたら問題が解決するのだろう？」自分ごととして捉える子どもたちの姿勢は、真剣そのものです。その後、クイズにも出てきた「分別」「リサイクル」「海洋プラスチック」「エコバッグ」などのキーワードから、地球を笑顔にするためのエコ標語を作りました。

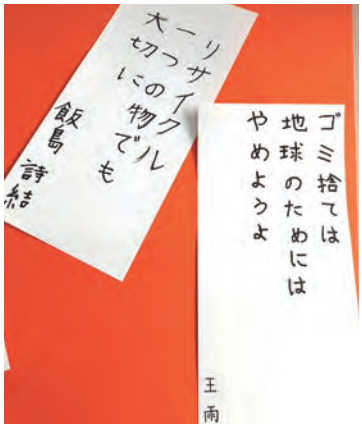
子どもたちの会話から「給食に行く時、電気を消せた」「帰る時に電気を消しといたよ！」などいくつかの声が聞こえてきました。環境問題は、「これはできない、あれはできない」というようにできない理由を並べるのではなく、「これはできた。あれもできた」という「できた事実」を積み上げていく。そうすることが、温暖化を防ぐ一歩なのかなぁと、子どもたちの姿勢から私たちも学びました。

教室の中だけでなく、暮らしの中にどんな視点を取り入れていけばよいのか。そのヒントを子どもたちと共に探ることができました。

【3年生】…環境問題について自分の考えを言葉で表現することを狙いとして、「エコ」をテーマにした五・七・五の川柳づくりに取り組みました。リサイクル、地球温暖化、自然、地球などの言葉をもとに、環境を守るために自分たちにできることは何かを考えながら、一人ひとりが作品を完成させました。

１組では「電気や水は大切に使う」、２組では「ごみを減らそう！」を学級の目標として設定し、日々の学校生活と環境への配慮を結び付けて考える活動としました。川柳という短い言葉の中に思いを込めることで、環境問題を身近なものとして捉え直し、自分の行動を振り返るきっかけとなりました。

今回の活動を通して、児童たちが「知って終わり」ではなく、日常生活の中で環境を意識した行動を続けていくことの大切さを学ぶことができたと考えています。




【4年生】…環境問題への関心を高めるため、夏季休暇中に「エコポスター」の制作に取り組みました。子どもたちは地球温暖化の防止やごみの分別、節電・節水など、各自が興味を持った幅広いテーマを選び表現しました。完成したポスターには、資源のリサイクルを呼びかけるものや自然保護を訴えるものが多く揃い、制作を通して環境保全を自分事として捉える貴重な機会となりました。また、学校生活においても、制作したポスターの内容を意識し、教室の消灯やフードロスの削減といった行動を心がけています。こうした活動を通じ、身近なところから環境に配慮した生活を送ろうとする意識が育っています。

## 各校園の環境教育・環境活動

【5年生】…年度当初より「環境問題」について、個人でテーマを設定し、調べ学習を行いました。身近な環境問題について考え、よりよい環境を目指していくための改善策を考えたり、調べて分かったことや自分の考えをまとめたりしました。個々で行った調べ学習としては、ごみの問題、二酸化炭素を減らすための取り組み、オゾン層や森林破壊、絶滅危惧種、地球温暖化などさまざまなテーマが挙げられていました。調べた内容を環境新聞や提案書、ポスターから選び、自分の伝えやすい方法でまとめました。９月には少しでも環境問題の改善につながる取り組みをクラスごとに考え、１週間取り組む活動も行いました。具体的には、クーラーの設定温度を上げたり、給食の残飯を減らしたりする活動を実施しました。一人ひとりの取り組みが大切であると実感できるとても良い学習になりました。また、１１月にはセカンドハーベスト京都の方にもお越しいただき、世界の食料問題にも目を向け、食品ロスを減らしていく取り組みについても考えました。

【6年生】…児童それぞれが関心のあるテーマを選び、ポスターと標語を制作しました。海洋プラスチック問題や森林保護、地球温暖化など、選んだテーマは多岐にわたります。「伝えたいことは何か」を真剣に考え、色使いを工夫したポスターで、どうすれば地球を守れるかを考えた作品ができあがりました。また、環境標語も考え、どうすれば言葉で自分たちの思いを伝えられるかも考えました。

クラスでの取り組みとしては、「自分たちにできることは何か？」を考え、クラス目標を決めました。１組は「ごみの分別をしっかりしよう」という目標で、教室内に分別のための専用ごみ箱を自分たちで設置しました。一人ひとりがごみに対しての意識を変えることで、教室から出るごみへの意識が劇的に変わりました。２組は「電気の無駄遣いをなくそう」を目標に掲げ、教室の消灯を徹底しました。休み時間や移動教室の際、誰からともなく「電気消しておくね！」と声が上がるようになり、一人ひとりの小さな意識が大きな節電につながることを実感しています。

今回の活動を通して、子どもたちは「自分一人の力は小さくても、みんなで取り組めば大きな変化になる」という大切なことに気づいたようです。中学生になっても意識し続けていってほしいと思います。

### ❷臨海学習（6月30日～7月1日：４・５年生）

４･５年生で臨海学習に行ってきました。兵庫県の竹野･城崎方面に１泊２日の日程でした。当日は天候にも恵まれ、絶好の海日和でした。１日目は班のメンバーと協力しながらイカダ作りに挑戦し、海へと漕ぎ出したほか、ビーチで拾った貝殻などで自分だけのキャンドルを作りました。日が暮れてからは砂浜で花火を楽しみました。手持ち花火を楽しんだ後、打ち上げ花火も大きく打ち上がり、大盛り上がりでした。２日目は竹野スノーケルセンターで磯の生き物観察からスタート。ヒトデやクラゲなど多様な生き物と触れ合いました。最後に城崎マリンワールドを訪れ、城崎の海の生態系や海棲哺乳類についてたくさん学びました。美しい海や豊かな生態系に触れることで、それらを大切にしていきたいという気持ちが芽生えた素晴らしい２日間となりました。

❸さすてな京都見学（10月2日：４年生）

４年生は社会科で「くらしと水」や「くらしとごみ」といった環境と私たちの暮らしに密接につながる内容を勉強します。１０月には、社会科見学で南部クリーンセンター「さすてな京都」に行きました。南部クリーンセンターには京都市中のごみが集められてきます。集められたごみを見せてもらうと、大きなクレーンでかき混ぜられるごみの多さに驚いていた様子でした。毎日大量に集められる可燃ごみを燃やした後の灰は、埋め立て処分されます。京都市には「音羽の杜」という処分場があり、その一か所にすべて運ばれていきます。現在心配されていることは、今のごみの量が続くと処分場があと５０年しかもたないことです。そこで、授業の中でごみを減らしていくためにも私たちにできることを考えました。生ごみを出す際には食べキリ・使いキリ・水キリの「３キリ」を意識すること、一人ひとりが物を大切に使うこと、リサイクルやリユースを心がけることなど、自分たちが日々の生活の中で意識できることを考えることができました。

❹琵琶湖疏水見学（11月12日：４年生）

４年生は社会科の学習の一環として、琵琶湖疎水と蹴上浄水場に見学・散策に行きました。蹴上浄水場では、琵琶湖疎水を通ってきた水が私たちの家庭に届く水になっていく過程を見せていただきました。その後は、疎水記念館を見学し、当時の工事に使った道具などを見て、当時の苦労を肌で感じ、疎水の作りのすごさを実感し、授業で学習したことをさらに深く掘り下げることができました。

美味しい水が飲めることや、蛇口をひねって水が出ることは「当たり前」ではなく、長い歴史の中での苦労や、浄水場での様々な工夫により安全な水が供給されているということを実感できました。また、これからの生活の中で、子どもたちが水の使い方について考えられるきっかけとなりました。

## 5.3 京都光華中学校・高等学校

### ❶ 京都＋ベンチャーにて：SDGsボードゲーム

高校の探究学習「京都＋（アド）ベンチャー」は、１年生については全クラスで取り組んでいます。秋には京都にあるさまざまな魅力を知る機会として、「SDGsボードゲーム」（一般社団法人未来技術推進協会提供）を授業内で実施しました。ベンチャー企業、大学、慈善団体などのさまざまな立場で資金をやりくりしながら、SDGsの目標を達成するためのさまざまな取り組み・ミッションを協力して達成していくゲームを通じて、実際に京都で行われているさまざまな取り組みを知ることができました。ゲームを通じて知った取り組みについての問いを立てながら、環境のために自分たちが提案できること、解決したい課題などを発見し、アンケート調査や取材を通して、より具体的な活動へと発展させようとしています。今年の生徒からは「観光公害」「祇園祭でのごみ問題」「てまえどり」「渋滞問題」「駅やバス停のミスト」「地産地消の取り組み」などに注目した問いが出てきています。

## 5.4 京都光華女子大学・京都光華女子大学短期大学部

### ❶ 学科の学びを結実するアップサイクルの実践

アップサイクルとは、不要になったものや廃棄される予定のものに手を加え、新たな価値をもつ製品へと生まれ変わらせることです。廃棄削減につながるだけでなく、アイデア次第で元の用途とは異なる使い方が生まれ、新しい価値を生み出し、これまでとは異なるユーザーの手元に届く点も、アップサイクルの意義の一つといえます。このようなアップサイクルには、社会の状況や文化的背景、デザインの手法などを横断的に捉える多様な視点が重要です。そこでキャリア形成学科では、企業から提供いただいた素材を用い、学生が幅広い学びを通して培った多様な視点を生かすアップサイクルの取り組みを行っています。ここでは2025年度に実施した３つの活動を紹介します。

大阪・関西万博で披露したアップサイクルドレス

まずはEXPO2025大阪・関西万博です。4月23日（水）、シャインハットにて開催された「KYOTO EXPO MEETING」の KIMONO UPCYCLE RUNWAY に、応用ゼミⅠ～Ⅳ（担当：宮原佑貴子）の学生９名が参加しました。4年生はこの日のために準備を重ね、企業から提供いただいた婚礼衣装の白無垢を活用し、独自の解釈を加えたドレスにリメイク。和と洋が共存するアップサイクルファッションとして披露しました。

次に、専門科目「プロジェクト実践」クラスbでは、19名の受講生が５チームに分かれ、ブライダルセレモニーをシーンごとに演出するアップサイクルブライダルファッションショーを実施しました。各チームは担当シーンに沿ったコンセプトを立案し、役割を終えたウエディングドレスをリメイクするとともに、テーブルコーディネートを組み合わせ、式場としての演出を行いました。10月24日（金）、本学光耀館で実施された本番では、学生の提案により、地域活動を通して出会った認知症のある方に、父親役としてキャスト参加いただきました。誰もが安心して参加できるブライダルをつくりたい―そんな学生の思いが実現したひとときでした。

KIMONO UPCYCLE RUNWAYの様子

アップサイクルブライダルファッションショーの様子

そして、京都ハンナリーズより提供いただいた、役割を果たしたバスケットボールユニフォームを活用したアップサイクルの取り組みです。４年生は卒業研究の一環として、「京都ハンナリーズと地域のさらなるつながりの創出」を目的に、地域の方々と共に、同チームのマスコットキャラクター「はんニャリン」の衣装制作に取り組みました。制作過程においては、就労継続支援事業所ワークハウスせいらんのご協力を得てユニフォームを桜の形に型抜きしました。さらに、本学大学祭で実施したワークショップにて地域の方々に着色していただきました。

完成した桜は実に105枚。これらを取り付けた法被を制作しました。また、３年生は同ユニフォームを日常的に楽しめるファッションへとアップサイクルし、大学祭においてファッションショー「Feel the Blue」を開催しました。そして12月10日（水）には、京都市体育館で行われたＢ１リーグ戦「京都ハンナリーズ 対 島根スサノオマジック」のGAME DAY EVENTにおいてアップサイクル成果発表の機会をいただき、完成した衣装を身にまとった「はんニャリン」とゼミ生が、実際のゲームコートで披露しました。

地域の方々との共創によるはんニャリンの衣装

アップサイクル成果発表会の様子

### ❷ 京大上賀茂試験地でのフィールドワーク

2025年6月、キャリア形成学科の高野ゼミ3年生は、京都大学フィールド科学教育研究センター上賀茂試験地にてフィールドワークを実施しました。上賀茂試験地は約47haの広さをもち、ヒノキと広葉樹を主体とした二次林や樹木園、人工林、苗圃など多様な森林環境が整備されており、外国産樹種の導入や育成を進めてきた歴史をもつ教育・研究拠点です。当日は試験地の職員の方より、同地の歴史や役割について説明を受けた後、森林内を巡りながら樹木の特徴や里山の管理方法について学びました。竹や松に関する実験や、里山における人と森の共生に関する解説を通じて、学生たちは森林科学の研究内容に触れ、自然環境についての理解を深める貴重な機会となりました。

### ❸ 自然災害から身を守るために（自衛隊による授業）

2025年11月、キャリア形成学科専門科目「現代社会とリスク管理」において、自衛隊京都地方協力本部の隊員の方を講師に迎えた授業を実施しました。本授業では、まず自衛隊の業務内容について説明いただき、平時・有事を問わず社会を支える多様な任務について学びました。続いて防災に関する実践的な内容として、災害時に身近なものを使って行える応急処置の方法を教えていただきました。具体的には、古雑誌やビニール袋を用いた簡易ギブスの作成、衣類や毛布を用いた担架づくりなど、災害発生時にすぐ役立つ技術を、実演と演習を交えて学ぶことができました。学生にとって、日頃の備えの重要性を改めて認識し、自分たちが社会の一員として何ができるのかを考える貴重な学びの機会となりました。

### ❹ 地域の小中高への環境・エネルギー教育

キャリア形成学科の高野教授により、京都府立東稜高校、愛知県立春日井南高校、京都府立北稜高校において、環境・エネルギーに関する出張授業を実施しました。授業では、地球温暖化や環境問題の最新状況について、クイズやデータを交えながら分かりやすく解説し、高校生が主体的に考える探究型の学びを促しました。各校では「地球沸騰化とは？」や「環境問題に関する特別授業」などのテーマで講義が行われ、気候変動の現実や再生可能エネルギーの可能性について理解を深めてもらう機会となりました。

さらに、京都光華女子大学のチャレンジプログラムでも、小中学生を対象にVRを活用した環境・防災学習や、エネルギーの基礎を体験的に学ぶ実験授業を担当しました。地震発生時の教室を再現したVR映像の体験や、水素エネルギーを利用した実験などを通して、子どもたちは未来のエネルギーと防災への関心を高めることができました。

# 6. 第三者によるご意見

## 地域連携報告書・環境報告書に寄せて

学校法人光華女子学園におかれましては、地域の「健康・未来創造」への貢献を積極的に推進されている地域連携活動や、各校園ごとに特色あるエコキャンパスに努められ、環境教育、環境活動にも大変熱心に取り組んでいただき、心から敬意を表します。

京都市では、地域にお住まいの一人ひとりが、立場や肩書きを超えて、地域コミュニティの一員として、子どもや高齢者の見守り、防災訓練、清掃活動などの安心・安全を守る活動に取り組んでいただいています。

また、「学生のまち」として、大学と地域や企業、行政が連携して様々な取組を進め、学生の力がまちの活性化には不可欠です。

令和７年度には京都基本構想の策定を受けて、「市民生活第一の徹底」を基本姿勢に、より多くの方の市政やまちづくり活動への参加を推進する市民参加の取組と、京都のまちづくりを支える地域コミュニティ活性化の取組を両輪で一体的に進めていくことで、これからの目指すまちを描いていきます。

地域連携報告書では、食文化から医療・福祉に関すること、子どもから高齢者向けまで、幅広い分野や年齢層へのご活動を拝見いたしました。

地域の方々はじめ、企業、行政との連携に積極的に取り組んでいただいていることを大変心強く感じています。

特に新たな地域交流イベント「光華キッズなフェスタ２０２５」においては、子どもたちの健やかな成長を願うイベントとして、区役所が長年取り組んでいる「こどもシゴト博@右京」と協働し、広報活動等で連携させていただけたことが、とても嬉しく印象的でした。

環境報告書においても、幼稚園から大学まで、身近なところから「エコ活動」に取り組まれており、日常生活の中で環境を意識した行動を続けていくことの大切さを、私も学ばせていただきました。

右京区役所といたしましても、今後ともより一層、学生の皆様、保護者の皆様、教職員の皆様と連携させていただき、これからの目指すまちに向けて、「つながる･支え合う･創り合う」の結節点となり、皆様と共にまちづくりを進めていきたいと思っています。今後とも何卒よろしくお願いします。

右京区長
人見　早知子

**地域連携推進センター教職員**

関　　道子（センター長・大学 福祉リハビリテーション学科 言語聴覚専攻）
藤原　加織（副センター長）
橋詰　侑季（センターマネジャー）
柴田　夏歩（センター職員）

**地域連携推進委員会**

下山　亜美（大学 健康栄養学科）
河喜多　寛治（大学 心理学科）
佐藤　嘉洋（大学 キャリア形成学科）
河内　尚子（短期大学部 ライフデザイン学科）
西川　秋子（大学 看護学科）
関　　道子（大学 福祉リハビリテーション学科 言語聴覚専攻）
柳生　和代（大学 こども教育学科）
頭山　高子（短期大学部 歯科衛生学科）

**環境教育推進室教員**

金治　　宏（室長・大学 キャリア形成学科）
小澤　茉央（小学校）
間浦　幹浩（中学校・高等学校）
深谷　麻友（幼稚園）

京都光華女子大学・京都光華女子大学短期大学部　地域連携報告書
光華女子学園　環境報告書　令和7年度版

令和8年3月
編集・発行　京都光華女子大学 地域連携推進センター・環境教育推進室

〒615-0882　京都市右京区西京極葛野町38
URL：https://www.koka.ac.jp/crc/　（地域連携推進センターウェブサイト）

地域連携推進センター
ウェブサイト

本報告書へのご意見・ご感想をお待ちしております。
お問い合わせ：chiiki@mail.koka.ac.jp

学校法人光華女子学園

京都光華女子大学大学院
京都光華女子大学
京都光華女子大学短期大学部
京都光華高等学校
京都光華中学校
光華小学校
光華幼稚園